

1 はじめに

災害リハ通信も2年目となり、災害リハビリについての関心が高まっていることを感じます。そんな中、この1年間で3度の津波警報が発令されました。皆さんの施設ではどのように対応しましたか？北海道太平洋沿岸に面している日胆支部は全域で避難指示と緊急安全確保地域の対象になりました。今回、警報時の対応についてアンケートで回答いただいたので紹介します。

2 津波警報について

種類	予想される津波の最大波
大津波警報	3 Mを超える
津波警報	1 M以上 3 M以下
津波注意報	0.2M以上 1 M以下

3 避難行動について

レベル	住民がとるべき行動	避難情報
5	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保
4	危険な場所から全員避難	避難指示
3	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難
2	自らの避難行動を確認	注意報
1	災害の心構えを高める	早期注意報

4 2025年7月30日9時40分発表 カムチャッカ半島付近の地震に伴う津波警報に対しての行動アンケート （一部施設にメールでアンケート） ※ご協力ありがとうございました

施設全体の対応	通常診療継続 情報収集 会議後、外来・通所・訪問リハビリを中止 緊急ショートステイの受け入れ 2階・3階以上への避難誘導 近隣住民に対して避難所として受け入れ対応	
PTとしての対応	自施設の安否確認・待機 訪問リハビリの位置確認 リハビリ室は使用せず病棟で対応 配膳協力（備蓄品の提供 暑さのための飲み物） 患者、利用者の見守りや体調観察 動作介助 リハビリ室を避難所として使用することを進言 リハビリ室を院内保育所として提供 訪問リハビリ先で上階への避難誘導そのまま付き添い	
個々の対応	通常通り 家族を自施設に召集 家族のために即帰宅 休暇中の職員の安否確認	

5 安否確認システムの運用について

昨年度の津波警報後、会員の安否確認や施設の被害状況について各地区幹事より問い合わせの連絡があったと思います。発災直後の被害状況を円滑に集約する為、道士会では安否確認連絡用フォーマットの運用を検討しています。これにより、どのような情報を施設代表者が集約し、地区幹事まで挙げると良いのか整備されることとなります。近く案内がありますのでご確認ください。

所属会員の安否状況 *

例

☐ 全員の安否確認済み（けが等なし）

☐ 全員の安否確認済み（負傷者あり）

☐ 一部、安否確認取れず

施設状況（回答時のわかる範囲で結構です） *

☐ 被害なし

☐ 被害あり

～編集後記～

津波警報時の行動に興味を持ったのは、当院、自分自身も「3M程度の津波なら大丈夫」と考えて通常通りの業務をしていたことの反省です。避難指示を軽く考えていました。業務終了後の町内はガランとしていました。多くの町民は避難していたことを知りました。後日発表された内閣府防災担当の調査では、避難指示地域の避難した割合は23.5%だったそうです。防災への意識やハザードマップの確認をきちんとしようと思いました。（文責：日高地区 矢部 晃子）

